

令和5年度 咲くやこの花賞贈呈式

2024年2月13日 [火] 18:30~20:30
会場=大阪市中央公会堂

<令和5年度咲くやこの花賞受賞者>

田中 秀介 / 美術部門 [現代美術]
坂東 祐大 / 音楽部門 [現代音楽]
大槻 裕一 / 演劇・舞踊部門 [能楽]
京山 幸太 / 大衆芸能部門 [浪曲]
千葉 雅也 / 文芸その他部門 [小説]

<スペシャルゲスト>

浅井咲乃 (平成30年度 音楽部門 [ヴァイオリン] 受賞)
with テレマン・アンサンブル

<司会>

加美幸伸 (FM COCOLO DJ)

<プログラム>

- ・大阪市長挨拶
- ・咲くやこの花賞贈呈
- ・受賞者活動紹介&インタビュー
- ・スペシャルゲスト記念演奏 [出演] 浅井咲乃 with テレマン・アンサンブル

<開催概要>

令和6年2月13日 (火) 午後6時30分から大阪市中央公会堂大集会室において、「令和5年度咲くやこの花賞 贈呈式」を開催しました。まずはじめに主催者を代表して横山英幸大阪市長が挨拶した後、今年度の受賞者の方々に賞状とトロフィーを贈呈。その後、新受賞者の活動を映像を交えたお話や実演で紹介しました。また、スペシャルゲストとして、平成30年度 咲くやこの花賞 音楽部門 [ヴァイオリン] で受賞された浅井咲乃さんとテレマン・アンサンブルの皆さんに弦楽五重奏の演奏をしていただきました。





司会 加美幸伸さんによる贈呈式開催の挨拶



令和5年度 咲くやこの花賞贈受賞者



横山英幸市長挨拶



田中秀介さんへ賞状と記念トロフィーの贈呈



坂東祐大さんへ賞状と記念トロフィーの贈呈



大槻裕一さんへ賞状と記念トロフィーの贈呈



京山幸太さんへ賞状と記念トロフィーの贈呈



千葉雅也さんへ賞状と記念トロフィーの贈呈

新受賞者の活動紹介



●田中秀介 美術部門 [現代美術]

田中秀介さんの作品は、身近な日常の中で自分が印象に残ったものを描くのが特徴。作品を見ながら解説していただきました。例えば、近所で行われている工事の人たちの様子や、テーブルの上に何気なく置かれたおいしそうなりんご、流し台のシンクの中に積まれた食後の茶わんやお皿、お箸が水にぬれてキラキラと輝く様子を綺麗だなどと思って描いているとのこと。見慣れた風景や日常の中に潜む美しさを見つけ出し、それを描き続けている田中さんから、皆さんも家に帰ったら是非、今まで触ったことがないところに触れてみてください、きっと何か新しい発見があるかもしれませんから、と語っていただきました。



●坂東祐大 音楽部門 [現代音楽]

坂東祐大さんは高石市出身。子どもの頃、母親がピアノ教師だったため、ピアノの練習をさせられていましたが、途中で作曲を先生に勧められてその道を志すことに。その後、東京芸術大学に進学し、作曲科を首席で卒業。現在はオーケストラ、室内楽から邦楽器、サウンドインスタレーションなど幅広い作曲活動を展開しています。音楽は一般的に「良いもの」とされていますが、坂東さん自身は「果たしてそうなのか？」と常に疑問を持つところから創作が始まるといいます。舞台上では、作曲した演奏映像を見ながら、音楽の常識から「脱構築する」、音楽の文法をバラバラにするような新しい試みの作品を紹介していただきました。



●千葉雅也 文芸その他部門 [小説]

千葉雅也さんは栃木県宇都宮出身。京都の立命館大学で教鞭を執っていますが、新宿のような賑やかな雰囲気惹かれ、大阪に住むようになったとのこと。気づいたら、デビュー作から全ての本を大阪で執筆していたそうで、11年目にしてこの賞を受賞できて大変うれしいと語られました。また、千葉さんは、本来は芸術分野に興味があり、絵を描いたり音楽を作ったりしていましたが、最終的に哲学の道に進んできたそうです。小説の処女作「デットライン」、大阪が舞台の二作目「オーバーヒート」、1995年の宇都宮を描いた最新作「エレクトリック」の三部作などを自ら紹介していただきました。



●大槻裕一 演劇・舞踊部門 [能楽]

大槻裕一さんの初舞台は2歳の時。子どものころから学校が終わると、能楽堂に行き、遊びの延長でお稽古をするという生活をずっと続けてきました。15歳の時にはじめて能面をつけて演じたそうですが、能面は何百年も前の先人たちが使ってきたものを使用するため、彼らの汗や涙を感じながら演じることになるといいます。最近では、大阪城天守閣前での薪能や「鬼滅の刃」を新作能でやるなど、新しい企画にどんどん挑戦しています。今回はお祝いに駆けつけてくださった人間国宝の大倉源次郎（平成3年度咲くやこの花賞受賞）さんの小鼓の演奏と大槻裕一さんの謡で独鼓「難波（なにわ）」を披露していただきました。



● 京山幸太 大衆芸能部門 [浪曲]

京山幸太さんは中学時代にヘビメタバンドを組み、将来は音楽で生きていくことを目指して作曲を勉強していました。その時、偶然キャンディーズなどの作曲家である穂口雄右さんに出会い、浪曲を聞いた方がいいとアドバイスされました。そこで、後に師匠になる京山幸枝若さんの教室を訪れ、はじめて聞いた浪曲が無茶苦茶カッコよくて、その場で弟子入りをお願いして入門。それから11年。最近ではお笑いの舞台にも挑戦したり、作家の町田康さんの小説「パンク侍、斬られて候」を浪曲アレンジにしたりと、多岐にわたる活動を展開しています。活動紹介の最後に、浪曲にのせて「浪曲の解説」をしていただきました。曲師は一風亭初月さんです。



- スペシャルゲスト：浅井咲乃（平成30年度 咲くやこの花賞 音楽部門 [ヴァイオリン] 受賞）
with テレマン・アンサンブル

スペシャルゲストは、今年度創立60周年を迎えたテレマン室内オーケストラのソロコンサートマスターをつとめているヴァイオリンの浅井咲乃さんです。贈呈式の感想を求められて、浅井さん自分が受賞した時は緊張しっぱなしでしたが、今年の受賞者の皆さんは本当にトークも面白くて驚いたと述べ、今年は周年記念のコンサートなどを多く行っているが、より多くの皆さんにテレマン室内オーケストラの音楽を知ってもらいたいので、ぜひコンサートに来てほしい、とご挨拶いただきました。お客様からは、「浅井さんの素敵なバイオリンの音色にうっとり聴かせて頂きました」「曲の選択が皆知っている曲で楽しめた」「リベルタンゴが生で聴けて良かった」などの感想をいただきました。

演奏者 浅井咲乃（ヴァイオリン）
 テレマン・アンサンブル：三谷彩佳（2ndヴァイオリン） 姜隆光（ヴィオラ）
 鷲見敏（チェロ） 橋本将紀（コントラバス）

演奏曲 フリッツ・クライスラー「愛の喜び」
 アストル・ピアソラ「リベルタンゴ」
 ヴィットーリオ・モンティ「チャルダッシュ」ほか



- 最後に新受賞者に登場いただき大きな拍手で贈呈式を締めくくりました。